

私の人生をV字回復させてくれた本

『得意に帆あげて 新装版』

本田宗一郎著／三笠書房

『「福」に憑かれた男』

喜多川泰著／総合法令出版

『下町ロケット』

池井戸潤著／小学館

『「手紙屋」：僕の就職活動を変えた十通の手紙』

喜多川泰著／デイスカヴァー・トゥエンティワン

とてもつらくて、落ち込んでいるとき、V字回復させてくれるきっかけをくれるのが読書です。あの時、その本が私の手元にあったのは、本当に偶然なのですが、自分の過去を思うと必然であるように思います。今日は、私の人生の凹みをV字回復してくれた本をみなさんに紹介し、今後の人生の糧にさせていただければと思っています。

1冊目は、自分が大学4年生の時に読んだ 本田宗一郎著『得意に帆あげて』です。恥ずかしながら、私の家は家業の不振のため、当時非常に貧乏で、特に大学に入学してからはいつも学費が納期直前まで払えず、ぎりぎりの生活を送っていました。当時は、バブル全盛期。周りの学生たちはみんな羽振りが良くて、飲み会や合コンに明け暮れていたのですが、私は週に2日間の徹夜のモスバーガーの掃除と4件の家庭教師を掛け持ちしながら、片道2時間半近くかかる千葉のど田舎から早稲田大学に通学していました。なぜ自分だけこんなに貧乏で苦勞しなければならぬのか？周りの人々の境遇をうらやんだこともあるし、親への恨み節も出るものです。そんなある日、母親が持っていたこの本を長い通学時間の暇つぶしとして読みました。

本田宗一郎という人が世界のHONDAを創立するまでの苦勞が対談で語られているのですが、今でもその中の一説を覚えています。「若い時の苦勞は買ってでもするものだ。」若い時は自ら苦勞すればするほど、その苦勞はその人を育てることが書いてありました。その1節が、当時の自分のハートに火をつけたのは言うまでもありません。自分の不幸を親のせいや家のせいにするのは簡単です。でも、今の苦境を自分で残り超えてこそ、そこに自分の成長があるのだという考えは、前の見えない自分の人生を考える上で大きな勇気をくれたものです。あと、この本の表紙は大変イカしています。宗一郎氏が、仮面ライダーばりのバイクに子供

のように嬉々としてまたがっている姿の写真。この旺盛な好奇心、いつになっても衰えないチャレンジ精神にも魅了されました。また、HONDAを世襲制にしなかった理由も潔さを感じました。彼の精神は、当時の自分のカンフル剤となったことは、間違いありません。

2冊目の本に出合ったのは、技大に来て数年が経過した頃でした。私は、博士課程を終了後、新潟の県立高校の理科教諭として6年間務め、その後、長岡技術科学大学の助教として研究者に戻ってきました。しかし、研究の現場を離れて、再び研究の道に戻った時は、後悔の連続でした。高校教員という職業は私の天職で、人を教育することは素晴らしく、自分がこの職業を選んだことに喜びを感じていました。しかし、それを辞めて大学に戻ってきたのは、新潟県における野生動物と人間の共存のため、自分が果たす役割がまだあると思ってのことでした。平成18年にクマの大量出没が生じ、新潟県のクマ捕獲頭数は、全国第3位でしたが、新潟県はクマの管理計画すら持っていなかったのです。私は生態学者として、このような無責任な管理体制の中で野生動物が殺されていく、しかも、動物の被害が減らない現場を変えたいと思っていました。しかし、研究の道に戻ってきたからといってその道は順風満帆ではありませんでした。サル被害が大きい新潟県で、サル被害の対策を浸透させるためには、住民への正しい鳥獣被害に関する啓発活動は欠かせません。夜、勉強会と称して中山間地域の集落の公民館を回り、年間数十回にのぼる講演会活動をしていました。しかし、研究者としては、そんなことをやっても業績はあがりません。しかも、既存業務を増やしたくないという気持ちを持っている行政担当者は、被害対策をやるように働きかける私を煙たく思っている人間も多く、実際の現場は困難を極めました。誰も応援してくれないし、何も前に進まない閉塞感にさいなまれ、なぜ天職である高校教員を辞めてしまったのかということの後悔し、泣き続ける日もありました。

そんな時、知り合いの友達よりもらった喜多川泰著『福に憑かれた男』という本が手元にありました。これは、福の神派遣協会より派遣された新米福の神が、主人公に人生の試練を与える物語です。福の神は、試練を与える代わりに、それを乗り越えるのに必要な人との出会いをプレゼントします。そうして、自分の力

で、その試練を乗り越えさせることで、人を成長させるのが福の神の仕事なのです。一方、貧乏神は、その人間に分不相応なラッキーを与えます。たとえば、宝くじに当たるなど。そういうことを繰り返すと、その人間はどんどんラッキーに頼り、本人が成長しなくなってしまうのです。この本を読んで、今、自分はたくさんの試練を福の神にもらっているのでは？と考えるようになりました。つまり、この試練を乗り越えればさらに成長し、次の段階に進めるはずだと思っても居ても立っても居られなくなり、AmazonでNPOの立ち上げに関する本を30冊くらい買い漁り、自分が解決すべき問題について、新しい団体を立ち上げようと決心しました。それから月日が経ち、今年ようやくその目標を達成しました。あの時、あの本がなかったら、辛かった境遇を嘆き、後悔ばかりしていたと思います。辛い時こそ、福の神がくれた試練（プレゼント）と考え、これを乗り越えることが、人を大きく成長させるということにこの本が気づかせてくれたのです。それ以降、「反省はしてもいいけど、後悔はしない」という言葉を自分の座右の銘にしています。

他にも学生の皆さんに紹介したい本があるのでせっかくだから紹介します。池井戸潤著の『下町ロケット』です。半沢直樹で大ブレイクしましたが、この本は彼が直木賞を取った記念すべき作品で、ものづくりに携わる人には、一度は読んでほしい作品です。中小企業が作ったある部品がなければそのロケットは飛ばない。技術力を武器に闘うモノづくり企業の物語です。とても元気をくれます。是非、だまされたと思って読んでみてください。もちろん半沢シリーズも元気をくれるので私は大好きです。

それから、うちの研究室に来る新入生全員に必ず配る本は、喜多川泰著『手紙屋』です。これから就職するにあたり、働くということはどういうことなのか？その意味を問う本なのですが、物語としての完成度も高く、とても好きな本です。2時間くらいで読める非常に読みやすい本なので、就職活動の移動時間に是非読んでほしいと思います。

良い本との出会いは人生を変えます。たくさんの良書にであうため、私は書籍代だけは惜しまないようにしています。是非、みなさんもたくさんの良書に出会い、それを糧にして実りある納得した人生を歩んでほしいと思います。

執筆者紹介

山本 麻希

生物機能工学課程准教授。専門領域は、動物生態学、野生動物管理学。

『書名』 著者名 翻訳者名 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格

『得手に帆あげて 新装版』 本田宗一郎著 三笠書房 2000年 1,512円

『「福」に憑かれた男』 喜多川泰著 綜合法令出版 2008年 1,404円

『下町ロケット』 池井戸潤著 小学館 2010年 1,836円

『「手紙屋」：僕の就職活動を変えた十通の手紙』 喜多川泰著 ディスカヴァー・トゥエンティワン 2007年 1,620円

[ブックガイド目次へ](#)